

主な所見

ポリープ

胃の粘膜の表面にできる、小さなこぶのようなものです。

憩室

壁の一部が、袋のようになって外側に飛び出した状態です。消化管のどこにでもできますが、ほとんどの場合問題ありません。

潰瘍瘢痕

胃や十二指腸の粘膜にできた潰瘍が治癒し、粘膜が修復してできた傷跡のことです。

粘膜下腫瘍

胃粘膜の下の層から発生した腫瘍性の病変です。

隆起性病変

粘膜が内腔に突出(隆起)したもので、大きめのものや形がいびつな病変です。

陥凹性病変

胃や十二指腸の粘膜面が潰瘍と異なった形でへこんでいる病変です。

びらん性胃炎

胃の粘膜がただれた状態(びらん)になった病変です。

辺縁不整

胃のふちが円滑ではなく、ギザギザや凹凸に見える像のことです。

ニツシェ

胃や十二指腸の粘膜面にできたへこみにバリウムがたまっている状態のことです。

胃角変形

「胃角」と呼ばれる部分が、さまざまな形に変形した状態です。

十二指腸球部変形

十二指腸潰瘍が治った痕です。

食道裂孔ヘルニア

胃の一部が、横隔膜にある食道裂孔という部分を超えて胸腔内に入り込んだ状態です。